

2026年3月期第2四半期(中間期)

# 決算補足資料



- 2025年10月31日
- 東証スタンダード(4539)

# Contents

決算サマリー	2-3
損益の概況	4-5
医療用医薬品の状況	6-7
ジェネリック医薬品 発売年度別売上	8
貸借対照表	9
キャッシュ・フロー推移	10
設備投資額・減価償却費 ・1株当たり情報	11
各種指標推移	12

当社の経営戦略について	13
経営戦略・3つの事業ドメイン	14
イノベーションロードマップ(抜粋)	15
ジェネリック医薬品事業	16
臨床検査薬事業	17
新薬パイプラインの概況	18
パイプライン詳細	19-21
アルカリ化療法	22
医療用医薬品の海外展開	23

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は予想数値と異なる結果となる可能性があります。

# サマリー①

## ■売上高

＜連結売上高： 15,932百万円 前年同期比+2.0%、対通期予想45.5%＞

- ・ジェネリック医薬品および臨床検査薬の引き続きの伸長により、薬価中間年改定の影響を吸収したうえで前年同期比増収となっている
- ・通期予想に対しては、医療用医薬品および臨床検査薬ともに下期に計画の比重を置いており、ほぼ想定どおりの進捗となっている

①医療用医薬品： 12,394百万円 前年同期比+2.3%、対通期予想46.8%

- |      |  |
|------|--|
| 増収要因 | <ul style="list-style-type: none"><li>・ジェネリック医薬品の拡販注力品の堅調な伸びと近年発売品の寄与</li><li>・長期収載品の選定療養制度に伴うジェネリック医薬品への切り替えの波及効果</li><li>・最低薬価品の薬価上昇効果</li></ul> |
| 減収要因 | <ul style="list-style-type: none"><li>・2025年4月に実施された薬価中間年改定（約△4%）の影響</li><li>・当社グループにおける一部品目の取り扱い終了</li><li>・主力品・新薬については、ジェネリック医薬品への置換</li></ul>   |

②臨床検査薬： 2,460百万円 前年同期比+10.5%、対通期予想42.1%

- ・ドロップスクリーンの国内累計設置台数は1,600台を超え、その高い製品力を背景に医療機関への普及が引き続き堅調に進んでいる
- ・当社の医薬営業部門によるプロモーションサポートや卸との連携による認知度拡大、関連学会やKOLとの関係強化を通じて製品価値のさらなる浸透を図り、2025年度の目標累計設置台数2,000台を目指す

# サマリー②

## ■利益

＜連結営業利益： 122百万円 前年同期比+60.6 %、対通期予想40.9%＞

- ・ 薬価中間年改定の影響等による原価率上昇がありながらも、増収により増益を確保した
- ・ 通期予想に対しては、売上計画の比重を下期に置いていることから、ほぼ想定どおりの進捗となっている

＜連結中間純利益： 163百万円 前年同期は△44百万円、対通期予想108.9%＞

- ・ 支払利息と為替差損の影響があった一方で、一部の政策保有株式の売却益を計上したことにより、親会社株主に帰属する中間純利益は163百万円となった
- ・ 通期予想を超過しているが、上期に計画していた研究開発費等の支出の一部を下期に繰り延べたことに加えて、来年4月に実施される薬価改定に伴う買い控え等の影響や、為替等の不確定要因もあることから、通期予想に変更はない

## ■トピックス

- ・ 今年度後半より日本薬品工業株式会社つくば工場3号棟2階の新設備から順次出荷を開始予定
- ・ ジェネリック医薬品の安定供給体制のさらなる強化のため、8月に新・コンソーシアム構想に参画
- ・ 新薬パイプラインの開発が順調に進展しており、8月にはDFP-17729のフェーズⅡ/Ⅲ試験の症例登録が開始された。NC-2800のフェーズⅡa試験は2025年度中に開始する予定
- ・ 海外展開においては、Nippon Chemiphar Vietnam Co., Ltd を足掛かりに販売チャネル開拓を一層強化しており、ベトナム国内で販売中の2品目の採用がベトナムを代表する国立医大病院等で順調に進んでいるとともに、複数品目の申請、申請準備を実施している

# 損益の概況(対前年同期)

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			
	中間期	構成比	中間期	構成比	前年同期比	
					増減額	増減率
売上高	15,626	100.0%	15,932	100.0%	+305	+2.0%
医薬品事業	15,055	96.3%	15,354	96.4%	+299	+2.0%
内、医療用医薬品 <sup>※1</sup>	12,111	77.5%	12,394	77.8%	+282	+2.3%
内、臨床検査薬 <sup>※1</sup>	2,227	14.3%	2,460	15.4%	+233	+10.5%
その他	570	3.7%	577	3.6%	+6	+1.2%
売上原価	11,510	73.7%	11,783	74.0%	+273	+2.4%
販売管理費	4,039	25.9%	4,025	25.3%	△ 13	△ 0.3%
内、研究開発費	1,160	7.4%	1,007	6.3%	△ 153	△ 13.2%
営業利益	76	0.5%	122	0.8%	+46	+60.6%
公的資金繰り戻し後営業利益 <sup>※2</sup>	272	1.7%	206	1.3%	△ 65	△ 24.1%
経常利益又は経常損失(△)	△ 62	-	48	0.3%	+110	-
親会社株主に帰属する 純利益又は純損失(△)	△ 44	-	163	1.0%	+207	-

※1 決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています。

※2 公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです。

# 損益の概況(対通期予想)

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			
	通期	構成比	中間期	構成比	通期予想	進捗率
売上高	32,570	100.0%	15,932	100.0%	35,000	45.5%
医薬品事業	31,386	96.4%	15,354	96.4%	—	—
内、医療用医薬品 <sup>※1</sup>	25,271	77.6%	12,394	77.8%	26,490	46.8%
内、臨床検査薬 <sup>※1</sup>	4,883	15.0%	2,460	15.4%	5,840	42.1%
その他	1,184	3.6%	577	3.6%	—	—
売上原価	23,824	73.1%	11,783	74.0%	—	—
販売管理費	8,139	25.0%	4,025	25.3%	—	—
内、研究開発費	2,292	7.0%	1,007	6.3%	2,750	36.6%
営業利益	606	1.9%	122	0.8%	300	40.9%
公的資金繰り戻し後営業利益 <sup>※2</sup>	939	2.9%	206	1.3%	450	46.0%
経常利益	443	1.4%	48	0.3%	100	48.4%
親会社株主に帰属する純利益	294	0.9%	163	1.0%	150	108.9%

※1 決算短信内セグメント情報の売上高から、医療用医薬品は受託売上等を減算、臨床検査薬はその他の収益を加算しています。

※2 公的資金の支援を得て行われるNC-2800の研究開発費を営業利益に繰り戻したものです。

# 医療用医薬品の状況(対前年同期)

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			
	中間期	構成比	中間期	構成比	前年同期比	
					増減額	増減率
医療用医薬品(①+②)※	12,111	100.0%	12,394	100.0%	+282	+2.3%
①ジェネリック医薬品	11,569	95.5%	11,949	96.4%	+379	+3.3%
自社販売	11,365	—	11,797	—	+432	+3.8%
導出・輸出	204	—	151	—	△ 52	△ 25.6%
②主力品・新薬	542	4.5%	445	3.6%	△ 96	△ 17.9%
ウラリット	197	—	140	—	△ 57	△ 29.1%
その他	344	—	305	—	△ 39	△ 11.4%
ジェネリック医薬品事業(①+③)	12,063	—	12,275	—	+212	+1.8%
③ジェネリック医薬品受託	493	—	326	—	△ 167	△ 33.9%

※ 決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。

# 医療用医薬品の状況(対通期予想)

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			
	通期	構成比	中間期	構成比	通期予想	進捗率
医療用医薬品(①+②)※	25,271	100.0%	12,394	100.0%	26,490	46.8%
①ジェネリック医薬品	23,968	94.8%	11,949	96.4%	24,680	48.4%
自社販売	23,589	—	11,797	—	24,360	48.4%
導出・輸出	378	—	151	—	320	47.5%
②主力品・新薬	1,303	5.2%	445	3.6%	1,810	24.6%
ウラリット	349	—	140	—	310	45.2%
その他	953	—	305	—	1,500	20.3%
ジェネリック医薬品事業(①+③)	24,784	—	12,275	—	25,500	48.1%
③ジェネリック医薬品受託	816	—	326	—	820	39.8%

※ 決算短信内セグメント情報の医療用医薬品売上高から、受託売上等を減算しています。



# ジェネリック医薬品 発売年度別売上

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			主な発売品目
	中間期	構成比	中間期	構成比	増減率	
2022年3月期以前	10,966	94.8%	11,018	92.2%	+0.5%	
2023年3月期	483	4.2%	592	5.0%	+22.5%	・フェブキソスタット ・エソメプラゾール
2024年3月期	102	0.9%	101	0.8%	△ 1.0%	・アジルサルタン
2025年3月期	17	0.2%	135	1.1%	+654.6%	・ゾニサミド ・リバーロキサバン
2026年3月期	－	－	101	0.9%	－	・グリメピリド「NC」 ・酢酸亜鉛
合計	11,569	100.0%	11,949	100.0%	+3.3%	

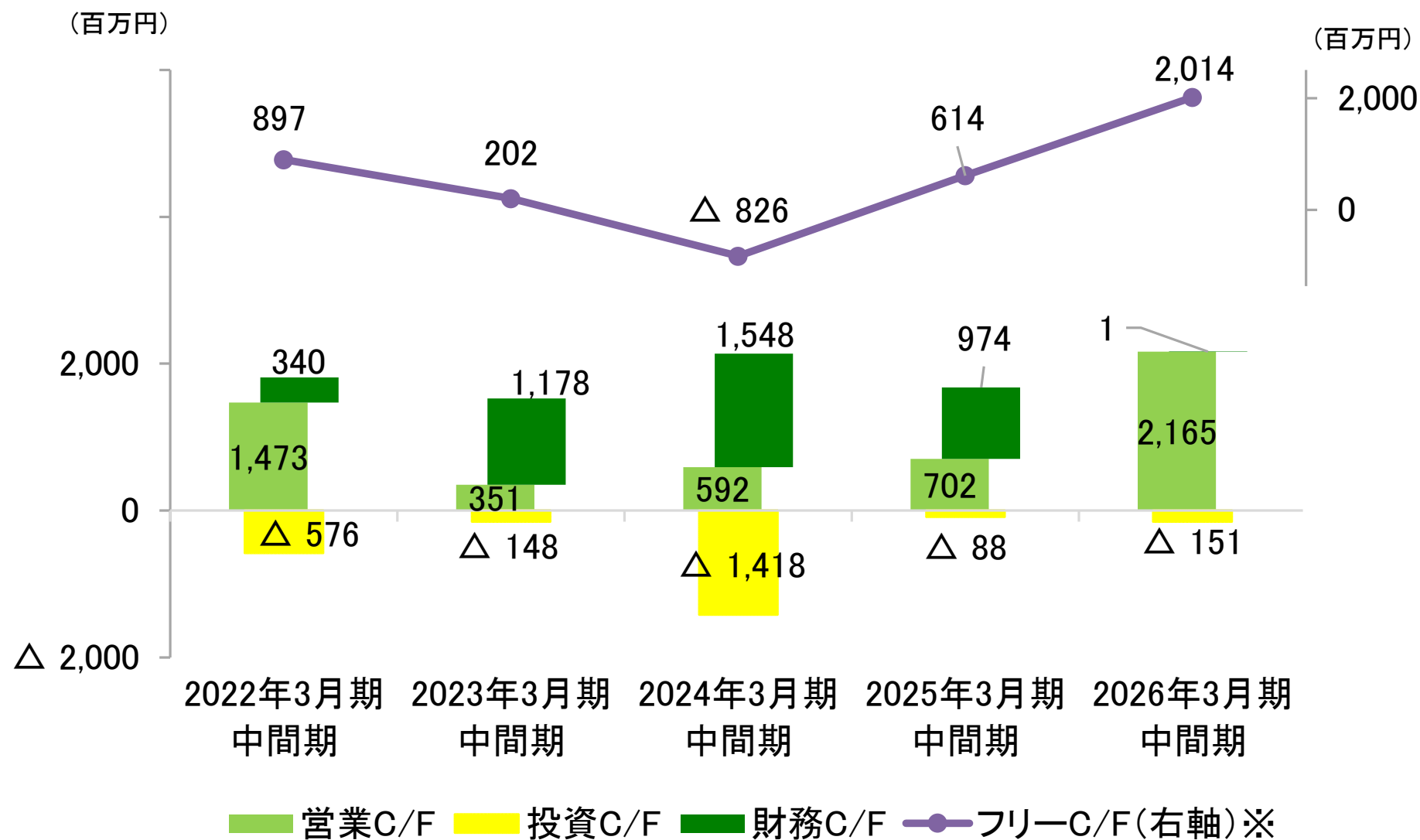
# 貸借対照表

(百万円)

項目	2025年3月期	2026年3月期				
	3月末	9月末	増減額	主な増減項目と理由		
流動資産	30,066	32,554	+2,487	現金及び預金	+1,979	増収および前期4Q増収の資金化
				棚卸資産	+1,788	※
				売掛債権	△ 1,262	前期4Q増収の資金化
固定資産	19,785	19,432	△ 352	建物及び構築物	△ 326	つくば工場3号棟2階の償却などによるもの
資産合計	49,851	51,986	+2,134			
流動負債	12,261	13,816	+1,554	仕入債務	+1,377	※
固定負債	18,422	19,236	+813	長期借入金	+136	年度運転資金の借入
負債合計	30,684	33,053	+2,368			
純資産合計	19,167	18,933	△ 233			
負債純資産合計	49,851	51,986	+2,134			

※ 増産対応による在庫の積み増しによる影響

# キャッシュフロー推移



※フリーC/F = 営業C/F + 投資C/F

# 設備投資額・減価償却費・1株当たり情報

(百万円)

	2025年3月期		2026年3月期			
	中間期	通期	中間期	増減率	通期予想	進捗率
設備投資額	1,753	3,003	388	△ 77.9%	1,420	27.3%
減価償却費	640	1,377	746	+16.6%	1,690	44.2%

(円)

	2025年3月期		2026年3月期		
	中間期	通期	中間期	前年同期増減	通期予想
1株当たり純利益又は純損失(△)	△ 12.26	81.72	45.27	+57.53	41.57
	9月末	3月末	9月末	前年同期増減	通期予想
1株当たり純資産	5,141.81	5,312.46	5,247.90	+106.09	—
1株当たり配当金	—	50.00	—	—	50.00
(参考)連結配当性向	—	61.2%	—	—	120.3%

# 各種指標推移

	2023年3月末	2024年3月末	2025年3月末	2025年9月末
売上高売上原価率	74.1%	74.8%	73.1%	74.0%
売上高販管費率	26.7%	26.8%	25.0%	25.3%
売上高営業利益率	—	—	1.9%	0.8%
売上高研究開発費率	7.7%	7.6%	7.0%	6.3%
EBITDA (百万円)	1,682	1,391	2,018	906
流動比率(倍)	2.26x	2.31x	2.45x	2.36x
D/Eレシオ	81.0%	90.5%	87.3%	89.8%
自己資本比率	38.1%	37.3%	38.4%	36.4%
自己資本利益率(ROE)	1.8%	—	1.6%	—
売上高純利益率	1.1%	—	0.9%	1.0%
総資産回転率	64.4%	62.7%	65.5%	—
財務レバレッジ	264.7%	265.8%	259.3%	268.9%
配当性向	53.2%	—	61.2%	—



## 当社の経営戦略について

# 経営戦略・3つの事業ドメイン

当社グループは、時間軸の異なる「ジェネリック医薬品事業」、「臨床検査薬事業」、アルカリ化療法剤を含めた「新薬事業」を3つの事業ドメインと定め、それらの事業を海外に展開することで、企業価値最大化と持続的成長を図っています。

## ジェネリック医薬品事業

「質」を追求した特色あるジェネリック医薬品事業を展開する

## 臨床検査薬事業

アレルギー領域で培ったコア技術を軸に画期的製品群を展開し業容を拡大する

## 新薬事業

アルカリ化療法をはじめとする自社技術・ノウハウを核に画期的新薬を継続的に創製し収益化する

## 海外展開

3つの事業ドメインを海外市場に積極展開し世界で存在感を発揮するグループとなる

# イノベーションロードマップ(抜粋)

新製品・新薬で複数のイノベーション創出に取り組み、日本ケミファグループの成長ストーリーへとつなげていきます。

事業ドメイン		取組内容	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030		
臨床検査薬		ドロップスクリーン 国内外市場/新領域展開	国内展開 設置台数約1,400台（2024年度）→ 目標2,000台（2025年度） 測定試薬のシリーズ化											
			海外での輸出開始 ~順次拡大											
			製品改良 国内：次期バージョンモデル投入 海外：試薬ラインナップ拡充・パネル開発											
新薬	アルカリ化療法剤	DFP-17729 フェーズⅡ/Ⅲ試験開始	肺がん フェーズⅠ/Ⅱ		評価・検討		フェーズⅡ/Ⅲ開始				申請・承認・上市			
		CKD関連適応拡大検討	臨床データ解析/基礎データ追加				2024年より開始された臨床研究の成果を適応拡大の可能性につなげる							
		健康食品・保健機能食品など	機能性表示食品等 3品目の上市						2024年度に1品目上市済 その他の食品化関連商品も順次上市					
	アルカリ化以外	NC-2800 フェーズⅡaの実施と導出	オプション契約	AMED CLE事業によるフェーズⅠ				フェーズⅡaの実施		導出先によるフェーズⅡb/Ⅲの実施				
		NC-2500 新規適応による導出	導出先による中国での開発～上市											
		NC-2600 適応を広げての導出	慢性咳嗽をターゲットとした早期の導出								導出先による臨床試験の実施			
		NC-2700 導出活動継続							早期の導出による収益貢献					
		DFP-14323 フェーズⅢ開始	肺がん フェーズⅡ完了		フェーズⅢ開始				申請・承認・上市					
	海外展開	製品輸出と現地開発/製造	ASEAN・中国・中東・アフリカ 4ヶ国6品目（2024年度）→ 5ヶ国14品目（2027年度）								さらなる販売国・品目数の拡大			



# ジェネリック医薬品事業

つくば工場3号棟2階の新設備は今年度後半より順次出荷を開始予定。引き続き自社グループにおける製造能力強化とともに、さまざまな企業と連携を図ることで製造効率を高め、安定供給体制を確保していきます。また、品質保証体制のさらなる強化と競争優位性ある品目の継続的な上市にも取り組んでいます。

## > 安定供給体制のさらなる強化に向けて

- 2024年8月に実装工事を完了した日本薬品工業株式会社つくば工場3号棟2階の新設備は、2025年度後半より順次、製品の出荷を開始する予定
- 従来より進めてきた個別企業間での製造集約に加えて、2025年8月に「新・コンソーシアム構想」に参画

自社グループ製造キャパシティ強化

企業間連携を通じた製造効率向上

安定供給体制を確保

## > 品質保証体制の継続的な強化

- グループ製造拠点および社外製造委託先や原薬製造所に対し定期的な監査を実施し、GMPを遵守した製造管理および品質管理の適正実施を確認するとともに、GQP・GMPに則った手順を絶えず見直して、品質保証体制の継続的改善に取り組む

## > オーソライズドジェネリック(AG)を含む 2成分5品目を発売

- 本年6月にジェネリック医薬品2成分5品目を発売
- そのうちグリメピリド錠「NC」はサノフィ株式会社が製造販売する、アマリール® 錠のAGであり、当社初のAGの発売となる

# 臨床検査薬事業

ドロップスクリーンの国内累計設置台数は1,600台を突破しました。営業面での各施策に加え、学会展示やKOLとの関係強化を通じて製品価値の浸透を図り、2025年度の目標累計設置台数2,000台を目指します。

## >ドロップスクリーンの取り組み

### 製品特長

- 注射器採血が不要で1滴の血液から41項目のアレルゲンを、30分で測定できるという高い製品力を有する
- この画期的な製品特長から、従来アウトソーシングが主流であったアレルギー検査の医療現場での実施を実現し、新しい市場を創成

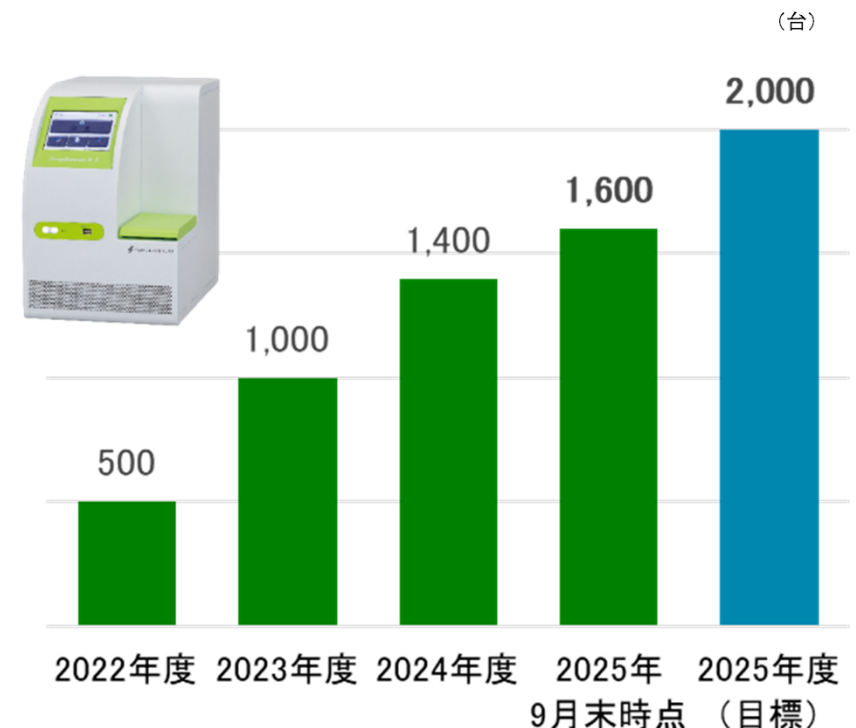
### 国内での普及拡大

- 当社の医薬営業部門によるプロモーションサポートや卸との連携による認知度の拡大、他社との共同販売等の営業施策を実施
- 学会展示やKOLとの関係強化を通じて製品価値の浸透を図る

### さらなる展開

- 次世代機器・試薬の開発、海外発売準備も進める

## >ドロップスクリーン累計設置台数推移



# 新薬パイプラインの概況

NC-2800はフェーズⅡa実施に向けた準備を進めており、今年度中の開始を予定しています。DFP-17729は2025年8月にフェーズⅡ/Ⅲ試験の症例登録が開始されました。DFP-14323はフェーズⅢが進行中です。

■ 自社開発 ■ 他社とのアライアンスによる開発 ■ 導出先において開発中

開発番号	作用機序 (ターゲット)	前臨床	フェーズ Ⅰ	フェーズ Ⅱ	フェーズ Ⅲ
NC-2500	XOR阻害薬 (痛風・高尿酸血症)	■	■	■	
NC-2600	P2X4受容体拮抗薬 (神経障害性疼痛・慢性咳嗽)	■	■		
NC-2700	URAT1阻害薬 (痛風・高尿酸血症)	■			
NC-2800	オピオイドδ受容体作動薬 (うつ・不安)	■	■		
DFP-17729	がん微小環境改善剤 (膵臓がん)	■	■	■	■
DFP-14323	抗がん剤候補化合物 (非小細胞肺癌)	■	■	■	■
カルバン	$\alpha 1 \beta 1$ 遮断剤 (ハンチントン病他)			■	

# 新薬パイプライン詳細－自社開発①

## NC-2500 (XOR 阻害薬)

開発段階	対象疾患	創製	導出先企業
フェーズ I 終了	痛風・高尿酸血症	当社	南京寧和衡信製薬有限公司(中国)
特徴	その他		
・XOR阻害作用により尿酸生成を抑制する。 ・フェーズ I において、血中尿酸値を徐々に低下させることで、治療中に生じる急性痛風発作の問題改善につながる可能性が示唆された。	・2023年に痛風・高尿酸血症を対象に南京寧和衡信製薬有限公司とライセンス契約を締結、中国国内での治験実施に向けた準備が進められている。 ・神経変性疾患への効果を示す基礎データが得られており同疾患をターゲットとした展開も検討中。		

## NC-2600 (P2X4 受容体拮抗薬)

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
フェーズ I 終了	神経障害性疼痛・慢性咳嗽	当社を含む2者共同研究	非開示
特徴	その他		
・P2X4レセプターを抑制するというユニークな作用機序を有する。	・in vivo試験で慢性咳嗽に対する有効性が確認され、味覚障害などの副作用がない新しい機序の治療薬として可能性を探る。 ・2024年7月にイタリアのピサ大学から炎症性腸疾患に対し、同年10月には鳥取大学から子宮内膜症に対し、可能性が期待できる論文が発表される。 ・国内外で積極的な導出活動を展開中。		

# 新薬パイプライン詳細－自社開発②

## NC-2700 (URAT1 阻害薬)

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
非臨床終了	痛風・高尿酸血症	当社を含む3者共同研究	—
特徴		その他	
・URAT1阻害作用により、尿酸の体外への排泄を促進する。		・酸性尿の改善効果がin vivo試験で確認されており、既存薬の課題である尿中での尿酸結晶析出による腎結石や腎毒性のリスクを低減させる可能性を有している。	

## NC-2800 (オピオイド $\delta$ 受容体作動薬)

赤字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	共同開発機関
フェーズ I 終了	うつ・不安	当社を含む4者共同研究	住友ファーマ株式会社
特徴		その他	
・オピオイド $\delta$ 受容体をターゲットとし、オピオイド $\mu$ 受容体 作動薬（モルヒネなど）に比べ依存性、耐性、便秘、呼吸抑制などの副作用への影響が少なく、安全性と有効性のバランスに優れていることが示唆されている。		・2017年度のAMEDの医療研究開発革新基盤創成事業(CiCLE)に採択。 ・2023年度にフェーズ I 終了、2024年10月にその結果を含むマイルストーンに対しAMEDからプログラムの継続承認を得る。 ・現在、フェーズ II a試験の実施に向けた準備を進めており、2025年度中に開始する予定。	

# 新薬パイプライン詳細－導入

## DFP-17729 (がん微小環境改善剤)

赤字が今回の更新箇所

開発段階	対象疾患	創製	開発機関
フェーズⅡ/Ⅲ	膵臓がん	Delta-Fly Pharma株式会社	Delta-Fly Pharma株式会社
特徴		その他	
・微小環境をアルカリ化することで、がん細胞の活動が抑制され、併用する抗がん剤の効果が出やすくなる。		・2020年にライセンス契約を締結、当社が日本国内での独占的販売権と国内で販売するための独占的製造権を獲得している。 ・ <b>フェーズⅡ/Ⅲ試験の症例登録が2025年8月に開始されており</b> 、膵臓がんについては2028年ごろには承認申請できるものと期待している。 ・将来的には他のがん種への適応拡大も検討していく。	

## DFP-14323 (抗がん剤候補化合物)

開発段階	対象疾患	創製	開発機関
フェーズⅢ	EGFR遺伝子変異陽性非小細胞肺癌	Delta-Fly Pharma株式会社	Delta-Fly Pharma株式会社
特徴		その他	
・アミノペプチダーゼNと結合することで、がん患者の免疫応答を強め、標準的な抗がん剤の投与量を減らした上で、副作用を増強することなく効果を高めることが示唆されている。		・2022年にライセンス契約を締結、当社が日本国内での独占的販売権を獲得している。 ・2024年2月よりフェーズⅢが開始され、国内約30施設で症例登録が進行中。 ・2029年ごろまでには承認申請されるものと期待している。	

# アルカリ化療法

「ウラリット」で長年培ったアルカリ化に関する技術や知見を活かして、がんや慢性腎臓病（CKD）、健康食品等、幅広い用途での展開を図っています。

## > アルカリ化の応用

### がん

#### がん微小環境改善剤

DFP-17729は膵臓がんを対象として開発中、2025年8月よりフェーズⅡ／Ⅲ試験の症例登録を開始（詳細はp.21に記載）

#### 抗がん剤誘発性末梢神経障害の予防・治療

富山大学と共同研究を実施、2025年4月に学会誌へ掲載

### CKD

#### 慢性腎臓病進展抑制

2024年7月より名古屋大学において医師主導臨床研究が開始され、症例登録が進行中

### 食品

#### 健康食品・保健機能食品

これまでの研究で得られた成果をもとに、健康食品等としての製品化、および、さらなるエビデンス取得を目指して取り組んでいる



# 医療用医薬品の海外展開

ベトナム工場での製造品目が順調に拡大しており、2025年9月末時点で8製品を製造しています。また、海外での販売についても2027年度までに5カ国 14 品目の販売を目指して各国での取り組みを進めています。

## > ベトナムでの取り組み

- 当社グループの海外生産拠点であるNippon Chemiphar Vietnam Co., Ltd.のベトナム工場では、同工場のコスト競争力を活かせる品目を中心に製造数を順調に拡大しており、9月末時点で8製品を製造
- 同拠点を足掛かりに販売チャネル開拓も一層強化しており、ベトナム国内で現在2品目を販売中、当期に新たに申請した品目を合わせて3品目を申請中であり、さらに複数品目の申請準備を進めている



ベトナム工場外観

## > 海外での販売状況

- 2025年9月末時点でベトナムを含む4カ国において7品目を販売中、さらに中東およびアフリカ市場への展開に向けた現地パートナー候補との協議も進めている
- 当期においては、ベトナムで承認を取得していた高尿酸血症治療剤「フェブキシソスタット錠 80mg」が2025年5月に国立医大病院で落札され、同年6月に卸へ初出荷された



本資料に関するお問い合わせ先  
日本ケミファ株式会社 経営企画部(広報チーム)  
Tel 03-3863-1211 E-mail [ir@chemiphar.co.jp](mailto:ir@chemiphar.co.jp)

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。